

講義コード	14D5220000
講義名称	農業経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Agricultural Economics Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2595
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大島　一二

授業形態	講義	プレゼンテーション
------	----	-----------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐる各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。 本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。 農業経済論Ⅱでは、世界と日本の農業・農村・食料について、①戦後の日本農業の展開過程、②世界の農業・農村・食料の現状について、とくにアメリカ、欧州、および中国等のアジア諸国の現状とそうした諸国がかかえる問題点について説明する。
学習（到達）目標	本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

講義・演習計画

回	内容
第1回	序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
第2回	戦後日本農業の展開過程（１）－農地改革と農地法体制の成立
第3回	戦後日本農業の展開過程（２）－基本法農政・高度経済成長と日本農業
第4回	戦後日本農業の展開過程（３）－農家兼業の深化・担い手の喪失と高齢化
第5回	戦後日本農業の展開過程（４）－米過剰から全般的過剰へ
第6回	戦後日本農業の展開過程（５）－食料・農業・農村基本計画
第7回	輸入農産物の急増と日本農業（１）－W T O交渉と輸入農産物の激増、食料安全保障、食品安全問題
第8回	輸入農産物の急増と日本農業（２）－農産物輸出
第9回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（１）－アメリカ農業の現状
第10回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（２）－ヨーロッパ農業
第11回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（３）－東南アジア農業と零細農耕
第12回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（４）－中国農業の現状
第13回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（５）－中国の三農問題
第14回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（６）－中国農村の労働力移動
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	対面授業を想定し、以下のように配点する。 M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。 さらに講義への出席を促進するため、出席点30点（15回各2点）を加点する。 合計130点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。 59点以下 D、60～69点 C、70～79点 B、80～89点 A、90点～130点 S。
---------------	--

参考文献	1)速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店） 2)荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学[第4版]』岩波書店 2015年 3) 生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会 1993年 4) 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社 1998年 5) 大島一二・山田七絵『朝日緑源，10年の軌跡 - 中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版、2019年 6) 大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房、2015年
事前および事後学習の指示	新聞を毎日読むよう習慣付けること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：農業経済論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	15D1220000
講義名称	環境社会学[2]　＜秋＞
科目英文名	Environmental Sociology
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	OSOC2520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
金　太宇

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	環境問題の本質を理解するには、人間は自然／資源をどのように利用してきたのか、その過程でどのような問題を引き起こし、どのように解決してきたのか／しようとしているのかを、現場から収集した事実関係に即して知ることが必要である。環境社会学は、環境問題の構造を明らかにしてその解決の道筋を探るとともに、地域における人間社会と自然との関係性や人びとの生活を分析してきた。本講義では、環境問題の歴史的教訓に学びつつ、地域社会や人びとが積み上げてきたさまざまな知恵、新しい試みなどを紹介しながら、これからの政策と環境づくりのあり方について考えていきたい。
学習（到達）目標	本講義では、さまざまな環境問題を具体的な事例で学ぶことにより、社会的な環境問題へのアプローチ法を理解できるようにする。また、環境問題に向き合う地域社会や人びとの実践、国際社会の取り組みや政策などに学びながら、環境問題の諸課題について環境社会学の概念や理論を用いて分析、考察する能力を獲得することを目指す。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション
第2回	環境問題の捉え方（1）:自然と人間とのかかわり
第3回	環境問題の捉え方（2）:成長の限界、環境リスク
第4回	環境問題の捉え方（3）:社会的ジレンマ、環境負荷の外部転嫁
第5回	人口圧と環境の劣化：人口論、貧困の連鎖
第6回	公害問題：公害とはなにか、被害構造論
第7回	大規模開発と環境行政:公共の福祉、受益圏・受苦圏論
第8回	科学物質と水質汚染：水は誰のものか、利水・治水・親水
第9回	廃棄物と資源循環（1）　：自区内処理の限界、NIMBY
第10回	廃棄物と資源循環（2）　：有害廃棄物の越境移動、電子廃棄物のリサイクル
第11回	廃棄物と資源循環（3） 中国の環境政策とごみ問題
第12回	エネルギー政策と原子力利用:エネルギー転換の岐路、反原子力運動
第13回	災害と暮らし:復興まちづくりと住民の合意形成
第14回	地球環境問題と環境ガバナンス:気候変動交渉はなぜ難航するのか
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	期末レポート（50%）と講義中に課す課題（50%）の成績を総合して評価します。
---------------	---

参考文献	船橋晴俊編,2011,『環境社会学』弘文堂. 鳥越皓之・帯谷博明編,2017,『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房. 足立重和・金菱清編,2019,『環境社会学の考え方：暮らしをみつめる12の視点』ミネルヴァ書房.
事前および事後学習の指示	環境問題に関する報道や記事に注意を払い、自学自習を進めること。指定の参考書及び講義で紹介する文献等を事前・事後学習に活用すること。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	環境問題、科学技術、リスク社会、社会的ジレンマ、生活者/当事者の立場、サステイナビリティ
備考(管理者用)	（旧：環境社会学）11～18E・11～15CBCC・10～18SS生読替☆（旧：社会学特講－環境社会学）02～09SS生読替

講義コード	1610510000
講義名称	経営戦略論　＜秋＞
科目英文名	Strategic Management
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2540
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
藤井　暢人

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① シンクタンクでの勤務経験を有する教員が経営学の基礎概念について解説する
------	----	------------	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	本講義では、経営戦略論の基礎概念について、実際の企業の商品やサービスを取り上げながら学習してきます。すなわち、基本的な経営戦略について、身近な商品やサービスが「なぜそのような価格なのか」や、「なぜそういったサービスを付加しているのか」といった観点から検討していく講義となります。よって、本講義では経営戦略論の学習を通じ、企業の採用している戦略を理解することのみならず、企業が抱える戦略上の問題を指摘できるようになることを目指します。
学習（到達）目標	① 学生が、経営戦略論とは何かを説明することができるようになる。 ② 学生が、実際の商品やサービスが抱える問題を、経営戦略論の基礎概念を用いて説明することができるようになる。 ③ 学生が、実際の商品やサービスが抱える問題の解決策を、組織行動論の基礎概念を用いて検討することができるようになる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	経営戦略論を学ぶ意味：なぜ戦略が必要なのか？
第2回	経営戦略論を学ぶ意味：戦略策定の難しさ
第3回	戦略的思考：因果関係を捉える
第4回	戦略的思考：SWOT分析
第5回	これまでの復習および試験
第6回	戦略的思考：PEST分析とVRIO分析
第7回	戦略的思考：ファイブフォース分析
第8回	戦略的思考：コア・コンピタンス
第9回	戦略的思考：ストーリーによる戦略
第10回	これまでの復習および試験
第11回	戦略の立案：価値・顧客・競合
第12回	戦略の立案：ポジショニング①
第13回	戦略の立案：ポジショニング②
第14回	戦略の立案：リソース
第15回	これまでの復習および試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	本講義の成績評価は、定期試験（第 6 回・第 1 0 回・第 1 5 回）と、ランダムに実施される小テストによって行います。
---------------	--

参考文献	大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智「経営戦略：論理性・創造性・社会性の追求（第3版）」（ISBN：978-4-641-22065-2）有斐閣 井上達彦・中川功一・川瀬真紀「経営戦略」（ISBN：978-4-502-32501-4）中央経済社 網倉久永・新宅純二郎「経営戦略入門」（ISBN：978-4-532-13403-7）日本経済新聞社
事前および事後学習の指示	まず、事前学習として、各回の内容に沿った自身の経験について簡単にまとめるようにしてください。次に、事後学習として、講義内で扱った概念や理論について、身の回りの事例を元に説明できるようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	経営戦略、企業戦略、市場戦略、製品戦略
備考(管理者用)	（旧：経営学特講-経営戦略論）02～20B生読替

<社会人の方へ>学部生を想定した講義を行います。その点をご理解の上、聴講ください。

講義コード	1765240000
講義名称	日本文化史B　＜秋＞
科目英文名	Cultural History of Japan B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
南郷　晃子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	本授業は説話・伝承世界を中心に、日本文化の中で「周縁」とされるみなされてきた人々・文化への、またそこからの視点を読み解いていきます。具体的には、江戸時代「キリシタン」と呼ばれたキリスト教徒、そして「バテレン」と呼ばれたキリスト教宣教師への眼差しを江戸の物語を中心に扱います。物語表現はときにシビアな差別を含み、その背後には、人々が彼らを「異なる存在」として見るまなざしがあります。これら表象について学び一緒に考えていきましょう。 講義形式ですが、コメント・意見をもとめます。
学習（到達）目標	「周縁」と「中心」という考え方について、具体的に説明できるようになる。さらに「他」文化をめぐる表象について自ら検討し、考察をすることができるようになることを目指す。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	キリスト教布教時代について
第3回	宣教師をめぐる言説
第4回	迫害のはじまりと殉教
第5回	「殉教」の時代とキリシタンをめぐる言説
第6回	潜伏キリシタンの世界
第7回	異人概念からの小括
第8回	遠藤周作『沈黙』から2～4回を振り返る
第9回	遠藤周作『沈黙』から5～7回を振り返る
第10回	フィクション化するキリシタン：キリシタンと芸能
第11回	「キリシタン」イメージの地域差：奇術をめぐる描写から
第12回	周縁化するキリシタン：キリシタンと狩猟民
第13回	想像としてのキリシタンー怪談から
第14回	近代化におけるキリシタン
第15回	まとめと試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法 (コメント)	その他50％は毎回の授業時に取り組んでもらうミニ課題です。課題の回答を通じて、授業に前向きに取り組んでいるかどうかを判断します。。ChatGPTなど生成AIの利用はみとめません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。
-------------------	--

参考文献	宮崎賢太郎『カクレキリシタン 現代に生きる民俗信仰』角川ソフィア文庫、2018年 中根千絵・南郷晃子編『江戸文化に拓くキリシタン表象』三弥書店、2024年
事前および事後学習の指示	授業用に配布するレジュメに含む説話をあらかじめ読み、内容を把握しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	キリシタン、周縁、異文化誤解、異端
備考(管理者用)	(旧：日本文化史) 02～17生読替